

## 不適切問題について

問75については、以下の理由により不適切問題として全員に加点した。

### 問75

アレルギー及びアレルギー用薬に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 アレルゲンが皮膚や粘膜から体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した免疫グロブリンによって肥満細胞が刺激されて、細胞間の刺激の伝達を担う生理活性物質であるヒスタミン等の物質が遊離する。
- 2 アレルギー症状に対する一般用医薬品の使用は、基本的に対症療法であるため長期連用は避け、5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合は医師の診療を受けることが望ましい。
- 3 抗ヒスタミン成分によりヒスタミンの働きが抑えられると覚醒が促されるため、副作用として不眠を生じるおそれがある。
- 4 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため、排尿困難や緑内障の診断を受けた人では症状の悪化を招くおそれがある。

### 採点上の取り扱い

全員を正解として1点を加点する。

### 理 由

手引きには、抗ヒスタミン成分には、眠気とは正反対の作用を生じて、神経過敏や興奮などが現れるとあることから、設問の記述では、正答を導くことができない。